

ワークショップ「読解授業でのピア・リーディングの導入と活用」の報告

講師に国立国語研究所日本語教育研究領域の石黒 圭氏をお迎えし、ピア・リーディング活動を取り入れた読解授業実践についてのワークショップを行った。

一つの授業実践例としてアカデミックな文章を読む授業を取り上げ、どうすれば協働学習の読解授業がうまくいくのかを考えるため、アカデミックな文章を学習者がグループで読み合うピア・リーディングの授業を分析・検討した。授業は、次の五つの観点から分析された。

- 1) ピア・リーディングでどのような課題を設定するか
- 2) ディスカッションのグループをどう分けるか
- 3) ディスカッションの談話をどう指導するか
- 4) 学習者へのフィードバックをどう行うか
- 5) 個々の学習者をどうサポートするか

ワークショップでは、まず参加者個人で課題に取り組み、次いで 3 名グループで共通の答えを出すというピア・リーディングを終えた後、上記のそれぞれについて参加者の感想も交え、以下のような検討・まとめが行われた。

- 1) 課題の形式はさまざまだが、学習者の創造性が発揮できるものが求められ、テキストの内容と長さ、そして課題にかける時間も重要である。
- 2) ディスカッションのためにどのようなグループの組み方には、初期の学習段階では同国人同士、中期・後期の段階では異なる文化背景をもつ学習者同士で組むのが有効だが、支配的な学習者、少数派の学習者には配慮が必要である。
- 3) ディスカッションの談話を進めていくには司会役が必要であるが、教師よりもファシリテーターが望まれ、その司会役が自分の意見を述べ、他者の意見が聞け、全体をまとめる必要がある。また、ディスカッションの展開には、肯定・同意の表現、否定・提案の表現、整理・確認の表現が重要だと考えられる。
- 4) フィードバックでは、ファシリテーターとしてのフィードバックと専門家としてのフィードバックが必要で、その両方を使い分けながらグループのみならず、個々の意見にも配慮する必要がある。
- 5) これらのピア・リーディングを行う前には、活動の目的、課題の意義、そしてリーディングでどのような内容を扱うかなどのアイス・ブレイキングが示される必要があり、学習者の意識の変容に合わせた指導が望まれる。

今回のワークショップに参加し、実際に学習者となってピアやグループ活動を行うことで、協働学習を促進しつつ個々の学習者の学びとモチベーション向上に貢献しうるリーディング授業について再考する良い機会となったと言える。